



よきてちょーた瀬戸！

「よきてちょーた」=瀬戸弁で「よく来てくれたねえ」の意味

作成：瀬戸市おもてなしボランティア
季刊誌作成チーム
発行：瀬戸市 まるっとミュージアム課

03 平成19年2月1日発行

瀬戸の春 ～雛めぐり・里の花たち・そしてサクラ～

春一番、瀬戸のイベントが始まります。手始めは幸せをもたらす「陶のまち 瀬戸のお雛めぐり」。

この地には、素朴な陶雛・土雛を作り、女の子の成長を祝う習わしがあります。瀬戸の複雑な地勢と集落は、この伝統を一層味わい深いものにしています。雛飾りおこしものなどの創意と遊び心は、土地の自慢を支えてきました。また、瀬戸は如月、弥生、卯月と季節の移ろいが良く似合う街でもあります。自然界の華やぎが訪れる人々を感動させ、瀬戸の春はどこも鄙びた味わいに満ち溢れます。曾野の里、海上の森では つばき ろうばい しでこぶし などが皆を誘っています。路傍の山野草や点在する瀬戸の「名木」も一時のやすらぎと癒しを与えてくれます。

昨年暮から、市のコミュニティバス運行が始まり、例えば水野地区の 雛の窯元めぐり などは一層便利になりました。

また、古刹の定光寺、旧蹟の岩屋堂などサクラの名所へも行き易くなりました。

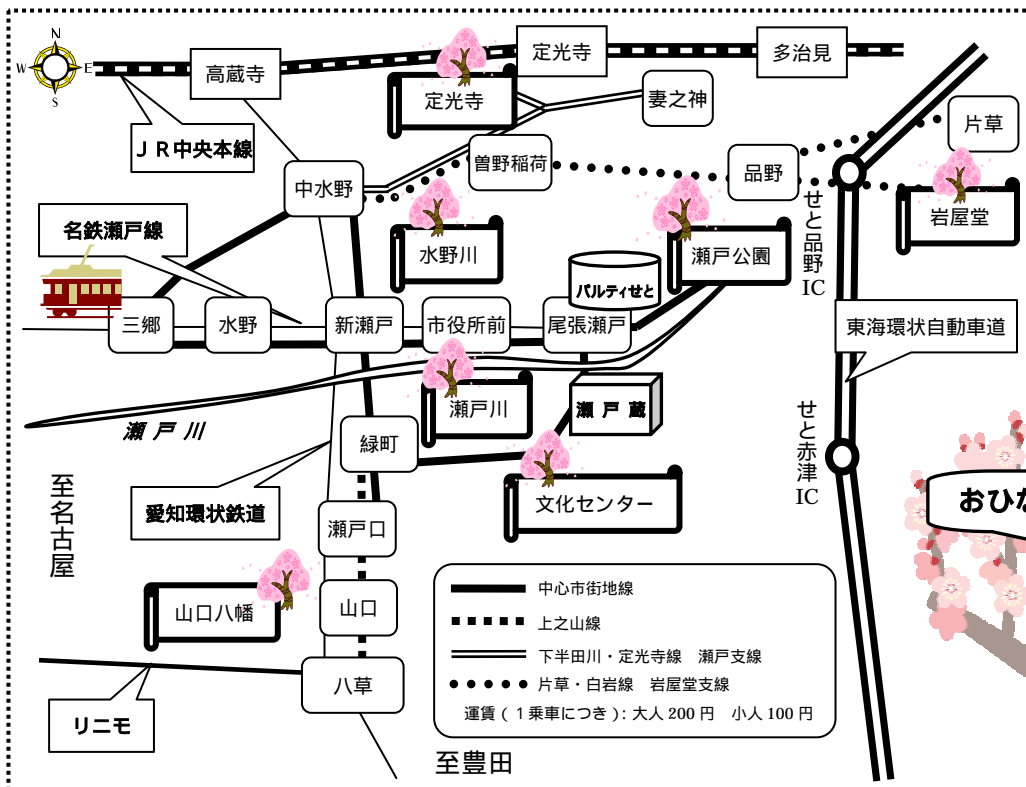
瀬戸はこれからが百花繚乱の季節。ごゆっくりと探訪してみたいはいかがでしょう。（細矢）



定光寺正伝池の水面に映る桜

《瀬戸市コミュニティバスのルートと沿線の桜見所》

詳しい時刻表や路線図は、パーティセと観光インフォメーション等でお配りしています。



コミュニティバス沿線
瀬戸のサクラ 7選

開花時期：4月上旬

- 定光寺
- 岩屋堂
- 山口八幡社
- 水野川
- 文化センター
- 瀬戸川
- 瀬戸公園

おひなさま特集は2・3面





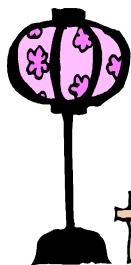
瀬戸で楽しむひなまつり



“せと”ならではの雛さま、陶雛、ガラス雛がお出迎え

瀬戸には、やきもの街にふさわしく、陶器のお雛さまを作る窯元さんが数多くあります。こうした創作雛そうさくひなで街中を彩る“陶のまち 瀬戸のお雛めぐり

【2月2日(金)～3月4日(日)】”が開催されます。そこで、今回はさまざまな角度から瀬戸のまちのひな祭りや表情豊かな瀬戸のお雛さま、その作り手の横顔をご紹介します。



中国と日本のしきたりが融合した“ひな祭り”



3月3日は桃の節句。女の子には楽しい「ひな祭り」の日ですね。この日は各ご家庭で赤い毛氈もうちんを敷いた上に雛人形を飾り、お供えものをして子どもの成長を祝います。

この謂われは、昔、中国で季節の変わり目に神に食物を供え、身体の安泰を願うという信仰があり、これを節供(=節句のこと)といっていました。旧暦3月の節句は上巳節じょうしげつといって、紙などで作る人形・形代ひとがた かなしろで身体を撫でて穢れけがれや災厄を水に流し神送りする行事が伝来してきました。一方、日本では幼女が紙人形でままごと遊びをする「ひいな遊び」があり、この遊びと信仰が融合し、ひな祭りの原型が出来たといわれます。「流しひな」の風習が一部地方にあるのはこの為でしょう。融合したのは約500年前の室町時代のことです。

その後江戸時代の中頃になると、女の子を祝う年中行事として盛んになり、庶民の間に広まり、雛人形や飾りも豪華になってきました。雛人形は古今こきんひなから土ひな、陶ひな等さまざまな形態の雛が地方の風習習慣で飾られています。いずれも幼女が健やかでやさしい子に育て欲しいという親の願いが託されています。皆さんのご家庭ではどの様なひな祭りが待っているのでしょうか。(高梨)

注1) 上巳=3月初めの巳の日。中国では巳は蛇のこと、蛇は水の神様です。

家運を引き起こす縁起物“おこしもの”



鯛、鷹、立雛のおこしもの

この地方では、米粉を練ってヒノキなどの木型から起こしてつくる「おこしもの」を「家運を引き起こす」という意味からも、縁起物としておひな祭りに白酒や雛あられと一緒に供えるという習慣があります。そこで、今回おこしもの作りの名人、水野在住の三浦美代子さん(83歳)を訪ねました。米の粉に熱湯を注ぎながら手で一つにまとめ、こねて、赤や緑に色づけして木型に入れます。お嫁さんの典子さんと、まるで本当の母娘のように楽しそうで、息もぴったり。おこしもの作りは、二人のお孫さんが小さい頃から続いているそうです。木型には、鯛・手毬・梅に鶯・縁起物など種々の型があり、これらの木型は、美代子さんのご主人や典子さんのお父様が、おひな祭りを迎える我が子や孫のために、毎年少しずつ買いそろえたものです。おこしものを型から出すときに、こね台に軽く叩くとカン・カンと音がします。以前はひな祭りが近づくと、隣近所から、このカン・カンが聞こえて来たそうです。蒸し上がった色とりどりのおこしもの!! 美代子さんの優しさが口いっぱい広がって・・・ごちそうさまでした。(田中)



長年使われている「型」



おこしもの作りの名人“三浦美代子さん”

クラフト工房 虹 (平八園製陶所)

創業100年以上の平八園製陶所^{へいはちえんせいとうしよ}は、今4代目。終戦後、アメリカ・ヨーロッパ・中東・アフリカなど世界中にノベルティを輸出し



ていましたが、最近是国内向けの生産が主となっています。現在作

っている陶雛のなかには、買われた方が、好きな友禅のデザイン和紙を陶雛に着せるというユニークな

ものがあり、主に関西・関東へ出荷しています。また、皆さんおなじみの“豚の貯金箱”は、こちらのオリジナル商品で、最初は貯金箱としてではなく、



使い終わったかみそりの刃を捨てるものだったそうです。ギャラリーには、

100年に渡る歴史の中で作られてきた製品がところせましと展示されていて、懐かしいものがたくさんありました。(大脇)

クラフト工房 虹 (平八園製陶所)
〔住所〕北山町145 〔電話〕(0561)82-5620
〔営業時間〕10:00~16:00(要予約)
〔定休日〕月・水・金・日曜日 〔駐車場〕1台

ナカドール・18番館

創業30年の店に入ると、手作りの市松人



形、日本人形を初め、花をモチーフにした人形やピエロ、楊貴妃他、魅力的な大小さまざまな陶人形が迎えてくれ

ます。雛人形は25年くらい前、お客さんの要望で作り始めたとのことでした。日本の伝統的な心を生かし、顔は品よく優しくなるように心がけ、



今もその気持ちは変わらないそうです。主な顧客は、日本各地のホテルや外国のパイヤーを含め30ほど。数として出るのは倉敷からが多いとか。作品を見てわざわざ瀬戸まで訪ねてくる外国客もあるそうです。(田坂)



ナカドール・18番館
〔住所〕新道町18 〔電話〕(0561)83-2752
〔営業時間〕9:00~18:00
〔定休日〕月・日曜日の午前 〔駐車場〕3台
〔HP〕<http://setoshi.com/naka/>

瀬戸ならではの
おひなさま

春を呼ぶガラス雛人形~ガラス作家・沖口こずゑさん~

“桃の節句”のおひなさま、なかでも数少ない吹きガラスの雛人形を作っている沖口こずゑさんの工房を訪れました。子どもの頃からビー玉などのガラスが好きだったという沖口さんが、同じくガラス作家の高山浩子さんと瀬戸に自分の工房を構えたのは7年前。以後、一貫して器を中心とした作品の製作に没頭の日々。工房では、様々な表情のガラス雛が春を待っていました。高温でオレンジ色に溶けたガラスの塊に命を吹き込むと、透明で重厚な美しい雛人形が誕生します。着物の袖の丸みや裾に広がるドレープの美しさ。壊れそうでいて壊れない強さ。その魅力はガラスという素材ならではの実感である、とのこと。素材の性質上、人形を作る工程に無駄は



なく、時間との戦いで生み出される一瞬の芸術ですが、デザインや工程などの構想を練るには約1年間かけるそうです。沖口さんがガラスと真剣に向き合ってきた作品はとても美しく、その中に強さが感じられます。ガラス雛の価格は一对3,625円から。なお、お雛めぐり期間中は新世紀工芸館にて作品の展示販売があり、2月25日(日)の13:30からは、沖口さんのガラス雛製作実演がありますので、ぜひどうぞ。(松本)

新世紀工芸館 〔住所〕南仲之切町81-2 〔電話〕(0561)97-1001 〔営業時間〕10:00~18:00 〔定休日〕火曜日

お雛めぐりで歩き疲れたら・・・瀬戸の元気な商店街で甘いものでも食べて一休み

銀座通り商店街「お茶彦」は香ばしいお茶の香りに包まれたお茶と茶道具の専門店。ここの抹茶ソフト(200円)は、知る人ぞ知る人気メニュー。店内に飲食スペースもあってゆっくりできます。お雛めぐり期間中は特製ソフトもあります。(蒲谷)



「お茶彦本店」
〔住所〕朝日町15
〔電話〕(0561)82-4207
〔営業時間〕9:30～20:30
〔定休日〕水曜日

せと末広商店街「SAUSALITO」は瀬戸には珍しい紅茶主体の喫茶店。店名の由来は、店主と奥様が新婚旅行で訪れたアメリカの思い出の街の名前で、旅行好きな二人が世界中から選んだ紅茶はなんと50種類。ハーブティ、コーヒーもあり、入れたて・つくりたてを守っています。お気に入りのお茶に店主こだわりのケーキをセットするのも楽しいのですが、この店にしかないおススメのスイーツは「パパドセット」(パパド=インドのスパイススナック+チャイ=ミルクで煮込んだ紅茶)「チーパセット」(チーパ=南米中央の素朴なおやつ+マテチャ=南米のヒイラギ科のハーブティ)。どちらもセットで650円ですが、奥様が試作を何度も繰り返した末に完成した秘伝のレシピです。また、こだわりの器と店内に飾られたノベルティや民次画伯の絵など「瀬戸」をたくさん感じることができるので、瀬戸を訪ねて来る友人に是非紹介したいお店です。(真野)



インドの味「パパド」



南米の味「チーパ」

「SAUSALITO」〔住所〕末広町2-9〔電話〕(0561)82-0584
(サウサリート)〔営業時間〕9:00～19:00〔定休日〕火曜日

お雛めぐりの次は・・・

第46回

陶祖まつり

4/14(土)・15(日)

尾張瀬戸駅周辺を始めとする市内一円で開催

ぜひきてちょーよ!



「陶祖藤四郎像」

陶祖まつりとは・・・?

瀬戸窯業の「陶祖」として伝えられる人物・加藤四郎左衛門景正(藤四郎)の遺徳を偲び感謝する祭りです。陶祖・藤四郎は、鎌倉時代に曹洞宗の開祖・道元禅師に伴い中国に渡って陶業技法を学んだ後、日本中で焼きもの作りに適した土を捜し求めていたところ、瀬戸の地にたどり着いて窯を築いたといわれています。陶祖まつりでは、尾張瀬戸駅から徒歩15分程のところにある陶彦神社で、陶磁器関係者を中心とした市内の名士が集まる祭礼が行われます。また、協賛行事として尾張瀬戸駅周辺や品野陶磁器センターなど市内各所で開かれる陶磁器廉売市には、多くの人で賑わいます。

今年で46回目を迎えるこの祭りは、陶祖藤四郎が瀬戸市民から今なお崇められ、敬愛されている証といえるでしょう。(白川)

写真協力：藤井武史さん(1面「定光寺正伝池の水面に映る桜」及び4面「陶祖藤四郎像」)

*この季刊誌「ようきてちょーた瀬戸!」は、瀬戸市おもてなしボランティアの季刊誌チームメンバーが、ボランティアの目線で瀬戸の観光情報を取材し、作成しています。ぜひ、誌面に対するご意見・ご感想を事務局までお聞かせください。
(瀬戸市おもてなしボランティア事務局)

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町1-1
TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 E-mail: marutto@city.seto.lg.jp

